

人と自然と文化にやさしい地域づくり

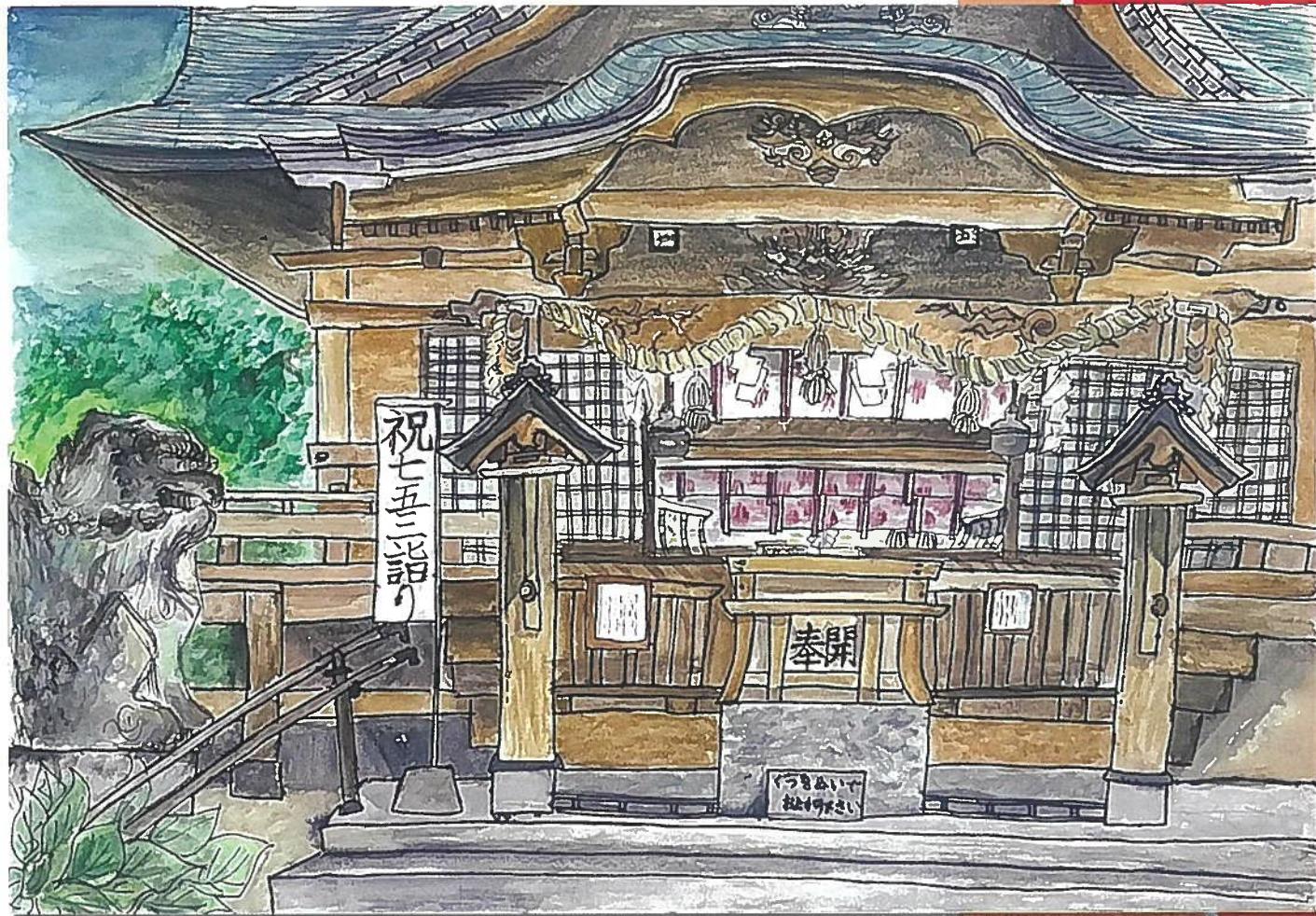
# 山口県教育

*Education of the Yamaguchi prefecture*

人間性豊かに生きる—「人間性」を求める—

1

令和6年 No.1342



## ■やまぐちの偉人に学ぶ

公益財団法人 松風会 理事 藤本 和義  
公益財団法人 松風会 理事 田村知津子

### ■第14回「わたしの志」作文

山口県立萩商工高等学校 3年 小茅 海凜  
前山口大学教育学部 教職大学院  
教授（特命）前田 昌平

### ■第35回「金子みすゞ賞」童謡詩

下関市立山の田中学校 1年 加戸 由仁  
山陽小野田市立須恵小学校 校長 間惠 満貴  
阿武町立福賀小学校 校長 長岡 正紀  
防府市立佐波中学校 教頭 尾辻 玲

### ■地域の伝統・文化を受け継ぎつなぐ

徳修館顕彰保存会 会長 杉村 洋治

令和4年度 第75回山口県学校美術展 推奨作品  
「神社のそばには狛犬」  
光市立浅江小学校 5年（受賞時）森川 ことは

あなたの  
アクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ返事で明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ安心やまぐち
- ◎ゴミ落書きのない美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：重枝謙二



## 素朴な疑問を大切に、資料を探る



公益財団法人松風会

理事 藤本和義



金子の手に望遠鏡が

**一 金子重輔が手にしている望遠鏡と、大きな日本刀を持つて仁王立ちの松陰像**

松陰読本表紙にある吉田松陰と金子重輔の銅像をよく見ると、金子が手にしているのは「望遠鏡」の形をしており、「望遠鏡を持つて仁王立ちしていいる像の写真が大きな刀を持つて仁王立ちしている」と、違和感を覚えた。

海外渡航の失敗に關



日本精神の象徴の日本刀

一方、大きな日本刀を持った松陰像は、下田の三島神社にあり戦時に建てられたもので、コンクリート製のこと。日本刀は、日本精神の象徴とか…なるほど、戦争へ利用されたという主張もある意味納得できるなど…。嘉永6年6月の「宮部鼎藏死」書簡に入手したのだろうか？」とふと疑問に思つた。

また、本文中に、松陰

吉田松陰に関して、いろんな研修会や講演会が開催されるが、「難しい」「多くの人物が出てくるが、名前もよく分からぬ」等の感想を聞くことがある。教員在職中から、萩松朋会会員として、毎月の輪読会に参加し、退職後は、山口県教育会萩支部主催の「松陰に親しむ会」等の講師を引き受ける機会も増えてきた。また、萩松朋会では毎年度末にまとめの冊子を作つて、お互いの研鑽としている。

このような講義資料や研修のまとめを作つていく際に、「あれつ、これはどうして？」と、ふと思ひ浮かんだ素朴な疑問や驚きを大切にして、資料を探していくように心がけているので、その一端を紹介したい。

吉田松陰に関する、いろんな研修会や講演会が開催されるが、「難しい」「多くの人物が出てくるが、名前もよく分からぬ」等の感想を聞くことがある。教員在職中から、萩松朋会会員として、毎月の輪読会に参加し、退職後は、山口県教育会萩支部主催の「松陰に親しむ会」等の講師を引き受ける機会も増えてきた。また、萩松朋会では毎年度末にまとめの冊子を作つて、お互いの研鑽としている。

吉田松陰に関する、いろんな研修会や講演会が開催されるが、「難しい」「多くの人物が出てくるが、名前もよく分からぬ」等の感想を聞くことがある。教員在職中から、萩松朋会会員として、毎月の輪読会に参加し、退職後は、山口県教育会萩支部主催の「松陰に親しむ会」等の講師を引き受ける機会も増えてきた。また、萩松朋会では毎年度末にまとめの冊子を作つて、お互いの研鑽としている。

吉田松陰に関する、いろんな研修会や講演会が開催されるが、「難しい」「多くの人物が出てくるが、名前もよく分からぬ」等の感想を聞くことがある。教員在職中から、萩松朋会会員として、毎月の輪読会に参加し、退職後は、山口県教育会萩支部主催の「松陰に親しむ会」等の講師を引き受ける機会も増えてきた。また、萩松朋会では毎年度末にまとめの冊子を作つて、お互いの研鑽としている。

吉田松陰に関する、いろんな研修会や講演会が開催されるが、「難しい」「多くの人物が出てくるが、名前もよく分からぬ」等の感想を聞くことがある。教員在職中から、萩松朋会会員として、毎月の輪読会に参加し、退職後は、山口県教育会萩支部主催の「松陰に親しむ会」等の講師を引き受ける機会も増えてきた。また、萩松朋会では毎年度末にまとめの冊子を作つて、お互いの研鑽としている。

そこで「国立  
国会図書館サーカス」  
に刻してあるな  
と見て取ること  
ができる。



そこで「国立  
国会図書館サーカス」  
に刻してあるな  
と見て取ること  
ができる。

**二 「豊和」と「豊波」が同じ石碑の両面に**

旧豊北町滝部にある滝部八幡宮下にある石碑で、片側には大きく「烈婦登和碑」と刻まれており、従一位男爵野村素介書とある。もう一方の面には「烈婦登和碑」の原文に忠実に「烈婦名登波、長門國大津郡角山村」と刻まれている。特に問題なく、なるほど、松陰の碑文のまま

しては、「回顧録」「三月二十七夜の記」に詳細が記されている。望遠鏡を持って、黒船の様子をうかがつたという記載がないか探つてみると、「回顧録」の三月二十二日の箇所に「この日吾れら二人、木村と柿崎海岸にゆきて夷船を観る。木村は、精工の千里鏡を携ふ」とあつた。この木村軍太郎は、佐久間象山の弟子であり、象山は西洋兵学にすぐれ、ガラスから大砲まで自作した人物であり、望遠鏡を持っていても不思議はあるまいと納得した。

また、下田の弁天島近くの公園には、同じような姿の「踏海の朝」という題名の銅像があるが、金子が手にしているのは、望遠鏡ではなく筆と紙であり、夷船の様子を記録しようする場面が描かれていて、面白い。

一方、大きな日本刀を持った松陰像は、下田の三島神社にあり戦時に建てられたもので、コンクリート製のこと。日本刀は、日本精神の象徴とか…なるほど、戦争へ利用されたという主張もある意味納得できるなど…。嘉永6年6月の「宮部鼎藏死」書簡に

周布政之助に依頼されて、顕彰文を作ることとなつたのであるが、それまでに登波の仇討ち一件に関する聞き取り記録や調書といつた類いのものがあつた。うから、それらを目につしながら、顕彰文を作成し、登波本人とも面会し、内容を確かめたという経緯がある。

この石碑は、大正5年、桂弥一の進言に従つて、地元の名士中山太一の寄付により、滝部八幡宮境内に建碑されたものであり、詳細な経緯については把握していないが、松陰の加筆前の初稿と思われる資料に「豊和」と記してあつたので、満足感を覚えたのであつた。

このように、ふと感じた疑問や驚きを大切に、「これだ！」というものを見つけたときの喜び、満足感は格別である。今後も、少しばかりのこだわりを持って松陰研究に地道に取り組んでいきたい。

# 松陰先生と「特別支援教育」



公益財団法人松風会

理事 田村 知津子

平成生まれの方々は、「松風会」をご存知でしょうか。

吉田松陰先生が江戸伝馬町の獄で処刑された安政6（1859）年、その先生の殉難から100年目にあたる昭和34（1959）年を契機に、山口県では没後100周年の記念事業が実施されました。その中核事業が山口大学の学生寮「松風寮」の建設です。

松風会は、山口県教育会がこの松風寮を主宰したことに端を発し、昭和49（1974）年には、松陰精神を継承して現代に生かすことを目的に、財団法人の認可を受け、山口県教育会から独立しました。爾来50年、松陰先生に関する研究会や



伝馬町牢屋敷跡の石碑

籍の刊行、銅像や碑の建立、維持管理等を続けています。

## 松陰先生の「時代に先んじた人権意識」

吉田松陰先生が江戸伝馬町の獄で処刑された安政6（1859）年に、余が策する所は武備の冗費を省き、膏沢を民に下さんとなり。四窮無告の者は王政の先にする所、西洋夷さへ所を得ざる者なき如くす。いわんや我が神國の御宝に

して犬馬土芥の如くにして可ならんや。」という一節があります。「西洋夷」といった蔑称を使いながらも、救貧施設や病院、養護施設、障害児施設等を設けている西洋の福祉施策を評価し、我が国も福祉や教育を充実して万民を苦しみから救おうと説く松陰先生の教えに、世界情勢を踏まえた先進的な提言という以上に、人間松陰の高い人権意識と人間愛を感じるのは、私だけでしょうか。

## 松陰先生の「弟杉敏三郎への思いと聾唖教育」

松陰先生は、15歳年下の聾唖の弟杉敏三郎のことを心配し続けました。嘉永3（1850）年、21歳の時に九州遊学の途中立ち寄った熊本で加藤清正廟を詣でた折には、敏三郎のために願い文を書いています。聾学校のなかつたこの時代、先述の西洋の福祉や教育の充実策を評価する根底には、こうした弟敏三郎への思いもあつたのではないかと考えます。嘉永6（1853）年、諸国遊歴の途上訪れた奈良では、聾の儒学者谷三山を訪問し筆談議を交わしています。この時、敏三郎の教育に心を碎いてきた松陰先生が、聾の当事者である三山から助言を受けたことは想像に難くありません。同年9月、言語理解や概念形成を促す視覚的な手掛けになりうる絵草子（絵本）を敏三郎に送っています。

## 松陰先生と「令和の日本型学校教育」

令和3年に中教審が取りまとめた『令和の日本型学校教育』の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）や、現学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の源流が、松陰先生の教育にあるところが、兄杉梅太郎宛ての書簡に記されています。対話的で深い学びの実現に向かって、時代を超えて息づく松陰先生の教育を伝えるべく、浅学の身ながら松風会の役割を繋いでいきたいと思います。

## 聾者 谷三山 の教育実践と松陰先生

松陰先生は、谷三山との交流の中で、障害のハンディを感じさせない高い学識はもとより、「吾れ充耳を以

て学を駄々に講ず。喜ぶところは諸生相親愛する」と、兄弟骨肉の如く然り」と説く三山の人間性や教育実践に大いに共感しました。安政5（1858）年の「諸生に示す」（『戌午幽室文稿』）でも、三山の言葉を塾生に何度も述べたと記しています。田畠を耕しながら素読を講じるという三山の教育は、まさに松陰先生自身が父母から受けた教育であり、互いに親兄弟のよう仲良く学び合うことが何より喜ばしいという言葉は、万人が平等に交わり、睦み合うことを旨とする松陰先生の人の観や教育実践に通じるものがあります。

## 松陰先生と「日本の障害児教育」

処刑された松陰先生の遺骸は、罪人として小塚原回向院に埋葬されましたが、4年後、高杉晋作や伊藤博文、白井小助ら門下生によって世田谷区の今は松陰神社のある地に改葬されました。その改葬に加わったのが長州ファイブの一人で、工学の父と呼ばれる山尾庸三です。山尾はイギリス留学中、グラスゴーの造船所での見聞がきっかけとなり、明治4（1867）年、「我國の盲聾と雖も教育宣を得ば亦何ぞ然らざらん」と、盲聾学校創設の建白書を提出し、その後も障害児教育に尽力しています。彼は松陰先生の門下生ではありますせんが、幕末期、伊藤や高杉、桂小五郎らと行動を共にする中で、松陰先生の福祉・教育の充実への考え方やその根底にある平等意識、人権意識、障害児教育への思いも受け継いでいたのではないかと思いません。

# 第14回「わたしの志」作文 第35回「金子みすゞ賞」童謡詩 表彰

第14回 「わたしの志」作文  
第35回 「金子みすゞ賞」童謡詩 表彰式 令和5年11月11日 山口県教育会館

山口県教育会の教育事績の顕彰事業「わたしの志」作文と文化遺産の継承事業「金子みすゞ賞」童謡詩の表彰式を行いました。当日は、山口県教育委員会教育長 繁吉健志 様をはじめ、「ご来賓の皆様、受賞された方、保護者の方など、関係する多くの皆様にお集まりいただき、あたたかい雰囲気の中で表彰式を行うことができました。本当にありがとうございました。

最優秀賞作品につきまして、「わたしの志」作文の一部と「金子みすゞ賞」童謡詩の全文、また、入賞された方々のお名前と作品名、審査員の講評を紹介します。



3年 小茅 海凜  
山口県立萩商工高等学校

## 困難の先に

私は将来、虐待などによって居場所を失った子ども達に生きる希望を与えられる児童福祉司になりたい。

現在の日本に、虐待も含め何らかの事情で親と一緒に暮らすことのできない子は四万人以上もいるそうだ。その子どもの中には各都道府県が保護し、乳児院や養護施設等で生活している者もいる。こうした子ども達への対応は、最重要視されるべきことではないかと思う。ただ保護し生活場所を提供するだけではいけない。特に、心の傷を緩和するためには特定の大人との長期にわたる愛着形成が大切なのだ。

私自身今まで辛いことの方が多く、たくさん泣いてきた。周りの目に敏感になり、「可哀想だね」という言葉に傷つくこともあった。「自分は愛されていない」と感じている子ども達に、愛を感じてもらうのは難しい。長い時間と、祖母のように子に向き合う気丈な愛が必要になる。それは一人では不可能で、周りの支えがあつて初めて可能になるのかもしれない。適切なサポートをしてくれる存在、苦しみや不安を相談できる存在が重要なのだ。私はそうした存在になることを目指したいと思う。

今私は、夢に一步でも近づけるよう、児童福祉について調べたり、地域の福祉センターに行き直接児童福祉司の方のお話を聞いたりして勉強している。その中

第14回 「わたしの志」作文  
最優秀 山口県教育委員会教育長賞



で「大変なことも多いけれど子どもの未来を切り開いている実感を得ることができる」という仕事のやりがいを知ることができた。また、児童福祉司の方々は個別のサポートだけではなく、心に傷を抱える子ども同士、親同士が集まり語り合う場や交流するイベントの企画等、様々な取り組みをされているということに感謝を受けた。実際にイベントにボランティアスタッフとして参加し、そこでひとり親家庭の方のお話を聞く機会もあったのだが、「自分一人で育ても良いのか」という悲痛な叫びが胸に突き刺さった。身近な所にさえ、親子関係に苦悩する方がいらっしゃることを目撃の当たりにした。その時は話を聞くことしかできなかつたが、私にも何かできがあればどんなに良いだろうと思った。

児童福祉司になるためには多くのことを経験しなければならない。乗り越えることも多い。まずは専門的な知識や技能を身に付けるために、学費をためて進学しなければならない。高校卒業後すぐは経済的に難しく、別の道を選択せざるを得ない。遠回りになる。それでも自分の力で進学をし、絶対に児童福祉司になる志を叶えたい。

たとえ何年かかるかだろうともこの志を諦めることはしない。

## 第14回「わたしの志」作文入賞作品

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「困難の先に」

小茅海凜

山口県立萩商工高等学校 3年

優秀 山口県教育会会长賞

小学生の部

「i-Ps細胞との出会い」

森田悠斗

萩市立明倫小学校 5年

「将来の私に近づくために」  
中学生の部

澤村あおい

周南市立太華中学校 1年

「経験から変わる自分」  
高校生の部

竹中結菜

柳井学園高等学校 3年

優秀 松風会理事長賞

「夢に向かって」

中島芽咲

萩市立明倫小学校 6年

佳作

「わたしの志」

中林雛乃

萩市立明倫小学校 4年

「マイクの力でみんなを元気に」

三浦優里子

萩市立明倫小学校 6年

「私の夢」

井本寧未

萩市立明倫小学校 2年

「私が描く未来の自分」

垣田奈甫

下松市立下松中学校 2年

「僕の志」

坂本光

周南市立太華中学校 2年

「世界を変える勇気の力」

山根大地

宇部市立東岐波中学校 2年

「未来を進む電車」

佐々木絢菜

山口県立下松工業高等学校 3年

「私の目指す看護」

藤部心暖

山口県立防府高等学校 2年

「心に寄り添う」

橋本響

柳井学園高等学校 3年

「父と共に」

重岡美咲

柳井学園高等学校 3年

小学生68編、中学生233編、高校生43編、合計344編の応募がありました。

「志を立てて、たくましく生き抜いてほしい」この作文の募集にはそんな願いが込められています。吉田松陰没後150年を記念して14年前に始められました。

最優秀賞の「困難の先に」は、児童福祉司として子どもの未来を切り開く仕事をすることへの強い決意を感じさせる作品です。自身の厳しい境遇を支えてくれた祖母への感謝と自らの人生を切り拓いていこうとする力強さが伝わってきます。

小学生の部優秀賞「i-Ps細胞との出会い」は、調べること、考えることの大切さに気づかせてくれます。自然を守る仕事調べが遺伝子を使って人や動物を助ける情報との出会いを生み出します。

中学生の部優秀賞「将来の私に近づくために」は、病気の自分を支えてくれた人たちに人を笑顔にできる人間になることで恩返しをしたいといふ思いが痛苦を感じさせない筆致で綴られています。

高校生の部優秀賞「経験から変わる自分」は、幼い頃からの経験を振り返ることで目指す看護師像への思いを深め、成長していく作者の心の内が見えてくる作品です。今後の歩みが楽しみです。

松風会理事長賞「夢に向かって」は、祖父の死、朗唱の体験が薬を開発する人に、人のために行動できる人になりたいという思いにつながっていく作品です。身近でできることから…立派です。

自分の中だけで完結するのではなく、「一人のためや世の中の役に立ちたい」という高い志を立て、夢や目標の実現に取り組む決意と信念を感じさせる作品が増えています。先生方のご指導、ご家族からの励ましや後押しの賜物であると感謝しております。

きっかけ動機をもとに、今の自分と素直に向き合い、夢や目標の実現に向けて自分が成すべきことを丁寧に拾い出していく。表現内容に年齢相応の体験や進路と結びついた具体性があればあるほど読む人の心を動かす作品になると想っています。「志」作文への応募が「志を立てる」きっかけになることを願っております。

前山口大学教育学部 教職大学院  
教授（特命）前田昌平

## 第14回「わたしの志」作文審査講評



審査の様子

# 第35回 「金子みすゞ賞」 童謡詩入賞作品

第35回 「金子みすゞ賞」 童謡詩  
最優秀 山口県教育委員会教育長賞



## 蝉の死骸

下関市立山の田中学校  
1年 加戸由仁

どこから来たんだ?  
階段の踊り場に蝉の死骸が転がっている  
腹を上に向けて転がつて  
蝉よ、天命を終えたのか?  
蝉よ、この世はどうだつた?  
蝉よ、おまえ意外に足が長いな  
蝉よ、デカイ声で叫んだのか?  
ほうきの柄でちょっとついてみる  
ジジジジジジジジジジジジ!  
ドキッとした  
蝉よ、まだ叫ぶのか?  
飛んでいった  
あっちには、何がある?

最優秀 山口県教育委員会教育長賞  
「蝉の死骸」 加戸由仁

下関市立山の田中学校  
1年 上原碧

優秀 山口県教育会会長賞  
「ほんとうのわたし」 清水奈々

光市立浅江小学校  
4年

中学生の部  
「ちょっと大袈裟かもしれないけれど」  
高校生・一般の部  
「ジイジと真夏のお賣い物」

下関市立山の田中学校  
3年

北山良典

岡山県岡山市

学校賞 下関市立山の田中学校 (校長 藤永雅宏)

佳作 「クラゲのかいすいよく」 小森ゆみ

柳井市立柳東小学校  
柳井市立柳東小学校  
5年

「生命」

「セミの声」

「くもり空」

「学校の時計」

「太陽と月」

「弟」

「じいやの梅干し」

「なつかしい世界」

「浜辺にて」

藤本工藤大誠  
秋市立椿東小学校  
6年

久村田中冴彩  
下松市立下松小学校  
6年

坂本海翔  
山口市立湯田中学校  
1年

藤井久美優  
山口県立防府高等学校  
1年

大野晶子  
山口県柳井市  
新潟県新潟市

第35回 「金子みすゞ賞」 童謡詩 審査講評  
山陽小野田市立須恵小学校 校長 間惠満貴



小学生347編、中学生342編、高校生・一般42編、  
合計731編の応募がありました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、以前の日常生活に戻りつつある現在ですが、この閉ざされた3年間、急速に変容したことの一つに、一人一台端末やICT機器の活用による子どもたちの学習スタイルがあげられます。さらに今後、生成AIが急速に普及しつつある現状において、子どもたちが五感で得た感動を、自分の言葉を使い、工夫して表現していくこと自体が、非常に価値あることと言えます。

本年度の最優秀賞「蝉の死骸」は、階段の踊り場で蝉の死骸を見つけたところから始まります。短い生命を全うした蝉への言葉かけ、命の重みや優しさを感じながら蝉に寄り添う温かさも読み取れます。しかし、ほうきの柄でつつくという子どもらしい行動で話の展開は一転します。「ジジジ……」の鳴き声とともに作者の前から飛びたつ蝉に、作者が驚き、読者も驚きます。そして最後は再び蝉への語り掛けで終わります。温かさ、意外性を含みつつ、非常にユーモラスな作品に仕上がっています。

小学生の部優秀賞「ほんとうのわたし」は、「ほんとう」「うそ」と「強い」「弱い」という言葉の組み合わせを巧みに繰り返しながら、自分を見直し、大切にしていきたい気持ちを素直に表した素晴らしい作品です。

中学生の部優秀賞「ちょっと大袈裟かもしれないけれど」は、長年使ってきた古い眼鏡と新しく買った眼鏡をそれぞれ「相棒」と表現し、思い出や未来への希望を作者独自の言葉や技法によって表現した洒落な作品です。

高校生・一般の部優秀賞「ジイジと真夏のお賣い物」は久々に会えた大好きな「ジイジ」との夏の思い出が、オノマトペを効果的に活用した風景・心情描写、動作表現で描かれていました。まるでノスタルジックなCMを見ているかのような感覚さえ味わえる素敵なお品です。今回応募された731編は、作者の感動を、どんな言葉でどう表現していくかにこだわった作品が多く、審査員一同、とても楽しく読ませていただきました。たくさんのご応募、本当にありがとうございました。

## 自分の考えを進んで表現できる児童の育成 ～極小規模だからこそできる授業の工夫を通して～



阿武町立福賀小学校  
校長 長岡 正紀

本校は阿武町の山間部に位置する全校8名の極小規模である。そのため、さまざまな人と関わりながら、考えを広げ・深める機会が少ない。そこで、児童の「主体性」と「表現力」を児童に関わる人＝「チーム福賀」で育成することを重点目標として掲げ、極小規模のよさを生かし、将来大きな集団や社会の中でたくましく生きしていくために必要となる言語を通して人と関わる力の向上に向けた教育活動に取り組んでいる。

### 1 新たな授業スタイルの構築

複式学級では、「わたり」「ずらし」などの学習のスタイルが一般化しているが、本校は1学年2名ずつのため、これまでのような「わたり」「ずらし」による学年毎の対話による学習では、思考の広がりや深まりが生まれにくいという課題があった。そこで、学年のねらいに応じた共通課題を設定するなど、1時間の授業の中で、異学年でも対話をを行う場面を位置付けるスタイルで取り組んできた。こうした活動を位置付けることを通して、対話に

## 「わからなさ」を大切に



防府市立佐波中学校  
教頭 尾辻 玲

防府天満宮のお膝元にある佐波中学校は、中庭の池に佐波川の水が流れ、歴史や文学、自然に恵まれた環境にある。校訓は「至誠・力行」。「至誠」を「あたたかみ」、「力行」を「ひたむき」ととらえ、学校教育目標「あたたかみがあり、ひたむきに未来を切り拓いていく生徒の育成」をめざしている。今年度は、研修主題を「『わからなさ』を大切に学び、互いを高め合う授業をめざして」と設定し、「あたたかみ」と「ひたむき」の生まれる授業づくりに取り組んでいる。ユニット研修を柱にした校内研修も充実し、職員室には、進捗状況を伝える掲示が更新されている。添えられた研修主任のメッセージからも「あたたかみ」がひしひしと伝わる。さらに、教職3年目の道徳教育推進教師がローテーション道徳を企画し、Yチャートを使った参観記録や参観スタンプラリー等の提案で、新しい風を吹かせている。

10月、1・2年生の「学び直し」には、地域や教育委員会、小学校、他学年、教職員など、53人の大人が集まり、指導や丸付けを行った。教科や

広がりや深まりを生み出すとともに、一人ひとりの表現力の向上にも役立った。

### 2 ふるさと学習「ABU学」の充実

はじめにも述べたが、本校ではたくさんの方々が「チーム福賀」のメンバーとして児童の「主体性」と「表現力」の育成に向けて、協力していただいている。極小規模だからこそ、さまざまな体験の場に出向き、コミュニケーションをとることで、自分のふるさとのよさを再発見し、もっと主体的にふるさとに関わろうとする心情が育ってきている。また、11月の学習発表会では、たくさんの方をご案内し、ふるさと学習の成果を堂々と発表することができ、児童の自信につながった。

新しい授業スタイルの実施に向けた、魅力ある教材・教具を準備したり、さまざまな体験活動の充実を図ったりすることを通して、児童の言語による表現の力が高まっていることを感じる。

今後も児童数が減少していく事が予想されるが、3年間研修してきた極小規模のよさを生かした授業作りを核として学校教育目標である「夢にむかってたくましく生きる福賀っ子」の育成に向け、より一層の教育活動の充実を図るために尽力していく。



タッチペンの活用

課題は生徒が選択する。当日は、わからなさがつぶやける「あたたかみ」あふれる教室で、難問に挑戦しようとする生徒の「ひたむき」な姿が多く見られた。

「学び直し」での一場面。ある方の前に行列ができている。訳を尋ねると、「ここは、全部合ったら花丸がもらえるんです」と、無邪気な声が返ってきた。たった一つの花丸でも中学生の心に火をつける大きな力がある、はっとさせられた瞬間だった。たくさんの大人が生徒を真剣に応援する「学び直し」は、本校がめざす「あたたかみ」と「ひたむき」を象徴する大切な場に成長しつつある。

「わからんかったことがわかつてきただ〜」、今日も、教室には素直で明るい生徒の声が響く。職員室の仲間とともに、生徒の「わからなさ」を大切にしながら、佐波中を一步ずつ前進させていきたい。



「学び直し」…地域の方の花丸に笑顔いっぱいの2時間

# 地域の伝統・文化を受け継ぎつなぐ

## 郷学「徳修館」顕彰保存活動



学校王国

長州藩

江戸時代三百諸侯の中でも長州藩の学校（藩校 郷学私塾 寺子屋）の多さは群を抜いている。藩校郷学は西日本唯一と謳われた明倫館を筆頭に19を数え全国第1位であり、私塾は105で全国第3位、また寺子屋は1307で全国第2位である。（日本教育資料）この寺子屋の数は現在のコンビニエンスストアの比ではない。これは驚きの数値であり、当時の教育水準の高さを物語っている。

現職の時代「教育県山口」の声を何度も聞いた経験があるが、その起源はここにあるようと思う。

何故これほど長州藩には教育施設が多くつたのであろうか。推測の域をでないのであるが、長州を治めていた毛利家の祖先は貴族の大江家であり、この大江家は、天神様で知られる菅家と並び称される学問に秀れた家が全国トップレベルであつたことと大きな因果関係があるのでないかと考えている。

### 徳修館の開館とその後

明治維新の諸改革の中で全国の藩校郷学はことごとく閉館する。徳修館も明治3年閉館するが、三つのルートをたどり現在に至っている。

一つは明治6年、その施設や人材を活用して、熊毛郡第一小学校が誕生。これはその後名称を変えて現在の三丘小学校となり、昨年創建150年を迎えている。

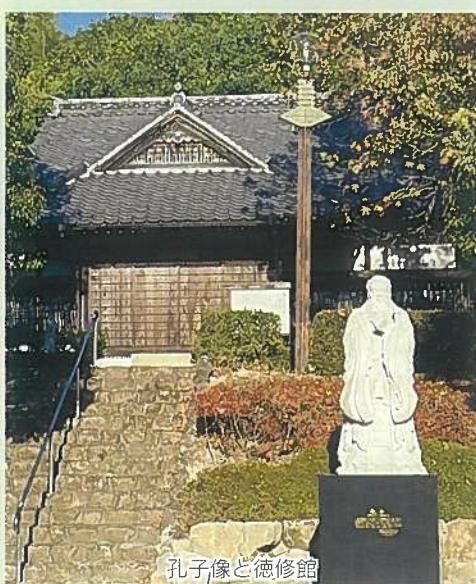
また、閉館時の館長宮川視明は故郷高水で「磨鍼塾」を開塾。これはその後高水村塾、旧制高水中学へ、そして現在の学校法人 高水学園に受け継がれている。

今一つは、大正5年徳修実科高等女学校が開校。村立や組合立の高等女学校を経て戦後の教育改革で、現在の県立熊北高等学校へと発展している。

### 徳修館顕彰保存会の発足とその活動

孔子を祀った聖廟が江戸時代の郷学の実情を残した県内唯一の郷学遺構として、昭和57年山口県有形文化財（建造物）に指定されている。幕末19にも及ぶ多くの藩校郷学があつたにもかかわらず、その遺構が現存するのは唯一徳修館だけである。

その顕彰保存を目標にかかげて平成20年、徳修館顕彰保存会を立ち上げる。その最大の事業は「糀菜」の開催である。糀菜とは「孔子の御靈を迎える孔子の功績をあげ奉り、学問の振興と地域の安寧を祈る」儀式である。糀菜は幕末までは全国の藩校郷学で実施されていた



孔子像と徳修館

たが、明治になり廃止の憂き目をしている。その後、今まで糀菜は多少復活したもののが全国的に見ても十指に満たない。徳修館糀菜は、138年という長い間眠り続けて覚醒した日本で一番新しい糀菜である。

今年度は昨年10月1日、徳修館糀菜を執行した。

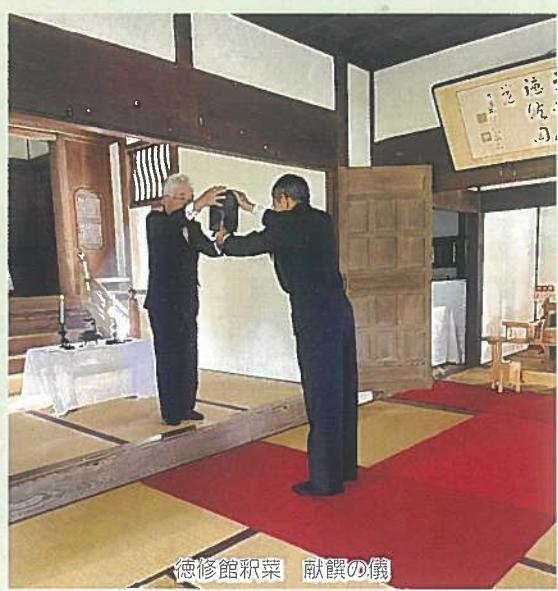
徳修館糀菜の特色は厳粛質素を旨としているが、児童の論語朗誦を取り入れているのは全国でも類を見ない徳修館糀菜の最大の特徴である。三丘小学校朗誦隊による論語の数章が発表され、多くの参列者に感動を与えていた。

三丘小学校転入教職員と新入生に贈呈している小冊子「あいうえお論語」は伝統ある三丘小学校素読学習のテキストとして活用されている。また、毎年行われる運動会の参加賞として「論語鉛筆」も贈呈している。その他、年6回の徳修館一般公開も本会の大きな活動である。

発足して15年目を迎える本顕彰保存会である。

糀菜を最大の行事として、論語の普及という大きな目標を掲げてはいるが、大変地味な活動でもあり「日暮れて道遠し」の感は否めない。

しかし「一灯一隅を照らす」を合言葉に地域を照らし続けるべく日夜精進している。



徳修館糀菜 献饌の儀

徳修館顕彰保存会

会長 杉 村 洋 治